

『海紅』（山崎聰第一句集）より

童話の顔で少年悴み丘の午後
ふぐりもつ吾子三月は鳥の色で
林檎甘し遠く昏睡の海が見え
鷗までとどかぬ怒声朝霞
春怒濤白く没陽を余す谷戸
紙飛行機を飛ばし田のない村の子供
夜はふくらむ雪嶺母の椅子軽し
鮑食うくたくたくたと春ネオン
声透る雪夜華やぐ指があり
雪山の灯を踏むしくしくしくと風

（昭和37年〜44年）

松村 五月 抄出